

優れた、より良い福祉コミュニティをめざして

まほろば

ふれあいネットワーク

社協広報

【特集】再編成期を迎えた村の在宅福祉サービス

—デイサービスセンターふれあいのB型移行
& ポケットハイキングサービスの試行—

第11号

【提言】Free型(自由型)デイサービス事業のすすめ

—アクティビティサービスとボランティア活動—



鳥の巣箱づくりに熱中する子どもたち

平成7年度より設置された、ふれあい児童館子ども会・レインボークラブ及び各種児童館教室も、更にその活動の輪を拡げ、内容的にも充実したものになってきた。

写真／「わんぱく探検隊」の活動風景から

特集

再編成期を迎え

B型デイサービス事業として再スタート ——デイサービスセンターふれあい——

平成6年の6月より、村内2ヶ所目のデイサービスセンターとして事業運営を行ってきた「デイサービスセンターふれあい」が、本年4月より、これまでのD型デイサービスからB型デイサービスに移行し、「デイサービスセンターやまがた」と同様の規模の事業として実施されることとなった。



▲在宅福祉サービスの拠点/ふれあいの館

これにより、村の年間デイサービス利用者数は、2ヶ所で延べ5,000人を目標に運営されることとなり、またデイサービス実施時間の延長、更に各種メニューの見直しをはかる等、きめ細かく、より良いサービスとしての事業展開が期待されることとなった。

◇B型デイサービス事業への移行◇



▲遊びリテーションもすっかり定着した

老人デイサービス運営事業は、対象者・事業内容・利用定員等により、重介護型(A型)・基本型(B型)・軽介護型(C型)・小規模型(D型)・痴ほう性老人型(E型)に区分されるが、本年度(平成8年度)より、山形村では、デイ・やまがたに加えて、デイ・ふれあいについても、基本型(B型)へ移行することとした。

山形村の平成7年度デイサービス延べ利用者数は、デイ・やまがた1,234人/デイ・ふれあい2,255人が実績(在宅介護支援センター調べ)として報告されている。これより推察すれば、山形村住民専用のデ

イサービスセンターであるデイ・ふれあいのB型(利用定員/1日当たりおおむね15人以上)への移行は、当初年度(平成8年度)の移行期実績は除くとしても、近い将来、山形村住民のデイサービスセンター(2ヶ所)の年間延べ利用者数において、5,000人を越える対応を見込むことを可能にした。

◇1日の利用時間拡大とメニューの見直し◇

デイ・ふれあいでは、午後4時までの利用ができるよう、受け入れ体制を整え、この4月よりサービス利用の時間的拡大をはかった。また生活リハビリ・レクリエーションの個別対応等、サービス・メニューの見直しに着手している。



▲丸茂先生(PT)から“直伝”の面白リハビリ

◇もくじ/社協広報第11号◇

[特集] 再編成期を迎えた村の在宅福祉サービス	2・3
[提言] Free型(自由型)デイサービス事業のすすめ(アクティビティサービスとボランティア活動)	4
[歳時記まほろば] おひさまコンサートの開催/ボランティアはじめまして講座等の開講	5
[報告] 24時間テレビ“愛は地球を救う”小型リフト付バス [まほろば号] の贈呈 小・中学校の社会福祉協力校指定/[インフォメーション] 福祉バスの増便運行	6・7
[寄稿] 「共に生きる」ということ/上條智子(下竹田・南竹原連絡班)	8

た村の在宅福祉サービス

これからのホームヘルプサービスを模索

—ポケットハイキングの試み—

村のデイサービス事業が普及するにつれて、在宅福祉サービスとしては「老舗」であるホームヘルプサービス事業のこれからのあり方が、村内福祉関係者の間で問われるようになってきた。

在宅福祉サービスの両輪とも言えるこれら事業は、前者が通所事業を基本とするのに対し、後者は訪問事業を基幹とする。しかし、もう一つの視点として、比較的にデイサービス事業がグループを対象にしたサービス展開を得意とするのに対し、ホームヘルプサービス事業は個々のニーズに即した個別のサービスを展開するのに、より良い条件を備えている。そのような視点からホームヘルプサービスを見直して、山形村社会福祉協議会では、この6月より、同サービスの1つのメニューとして「ポケットハイキング」を加え、試行実施することとした。

◇ポケットハイキングのサービス内容等◇



▲諏訪の湖畔で記念のスナップ

このポケットハイキングのサービス内容は、在宅の高齢者で、外出の機会があまり得られない状況にある方々を対象に、個別にハイキングサービス（援助）をし、心身のリフレッシュと社会参加の機会を提供することを目的に行うというもの。1回あたりの利用者は1名～3名を定員とし、ヘルパー・運転手に、必要により看護婦・ボランティアも同行し、利用者の希望するハイキングコースをあらかじめ調査の上、企画実施するものである。

ホームヘルプサービスの最近の動向として、メニューの多様化による事業展開よりも、対応時間等の拡大による事業展開が重視される傾向にあるが、登録ヘルパー等による時間外サービスの検討をすると同時に、「その他必要な身体の介護」として、例えば「森林浴サービス」等新規メニューを加えて、きめ細かい事業展開をはかって行くことも、これからのホームヘルプサービス事業の課題であるように思われる。

ポケットハイキングの試行実施により、今後のサービス展開の方向を模索したい。



▲小型リフト付バス「まほろば号」で快適な旅へ

◇みんなが参加できる事業型社協の活動をめざして◇

山形村社協の行う事業には、行政などから委託されて行う受託事業、補助金を受けて行う補助事業、行政・民間団体などと協力し合って行う協働事業の他、社協会員の会費などを財源に自主的に企画実施する主体事業があります。これは、住民・会員のみなさんのあたたかい参加・活動をいただきながら進められるもので、どこか親しみが感じられる事業と言えます。

新年度を迎え、受託事業などの一層充実した運営をはかって行くことと平行して、この地域にあった、きめの細かい福祉サービス・事業を、住民のみなさんと創造してみたいと思います。

山形村社会福祉協議会々長／本庄國二

提言

Free型（自由型）デイサービス事業のすすめ

——アクティビティサービスとボランティア活動——

いま、アクティビティサービス（ふれあい・いきいきサロン）という新たなサービスが登場している。これは、ごく身近な活動であり、これに類することは以前より近所などでも見かけられた。平成6年11月、「社協らしい事業」の1例として、全国社会福祉協議会よりその開発マニュアルが紹介されてから、注目されることになったものである。

このアクティビティサービスは、少人数（5～10人程度）の参加者（高齢者）が、歩いていける場所で、住民有志（ボランティア）と共同企画して運営して行く楽しい仲間づくりの活動である。

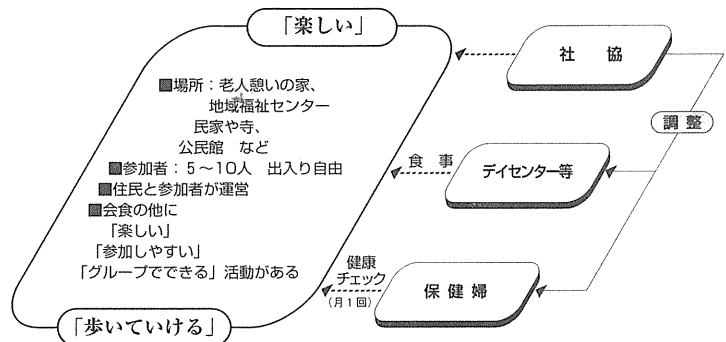
サービスの内容は次の通り。(1)会食（仕出し弁当・食事を1品ずつ持ち寄るパーティ方式・保育園児との合同の昼食会等いづれも可能。）(2)健康チェック（健康管理のために保健婦・看護婦などが1月に1回程度健康チェックを行う。）(3)その他の内容（きちんとしたスケジュールやプログラムをたてて進めるといよりも、参加者が楽しめる内容をみんなで決めていくことが肝心。気分や天気によって自由に内容を変えることもできる。）

「こんな活動なら、もうしているよ」という声もあろうかと思うが、Free型デイサービス「○○サロン」なんて命名して、村内に小さなグループがたくさんできるようになれば、大勢が参加する地域の活動にはなかなか積極的に参加できずにいる在宅の高齢者のみなさんも、健康や趣味、友だちや社会参加などの面がより満たされ、より生き生きとした生活をおくることができるようになるのではないかと。

「こんなFree型デイサービス、いっしょにこしらえてみたい」という人・グループ等がございましたら是非提携をさせていただき、同サービス(事業)の実現をめざしたいと思いますので、山形村社協事務局内/Free型デイサービス事業企画担当/小林 [☎98-3081]まで、ご連絡をください。



アクティビティサービス「ふれあいサロン」事業のイメージ図



—「ルポ社協活動'96」抜粋— [社協情報/平成8年4月号]

◇編集 中 記◇

■「始」という文字は、「終」という文字をその対極として意識させ、「初」ということには、すでにその対極にある「完」ということを予感させるところがある。かと言って、「おわり」ということに相当する文字を有しない「肇」を意識した場合、その対極（目標）をどのように把握したら良いのか戸惑うことにもなる。いっそのこと、このような対極的思考を離れて“プロセス”[過程]にのみ甘んじてみるのも、心のリフレッシュにつながる方法なのかも知れない。■新介護システム・公的介護保険等について盛んに論じられる中、将来のサービスのあり方・行方についても興味深いところではあるが、今日明日という身近なところに視点をおいた「より良い福祉サービス対応」を常に意識し、実践して行きたいと思う。

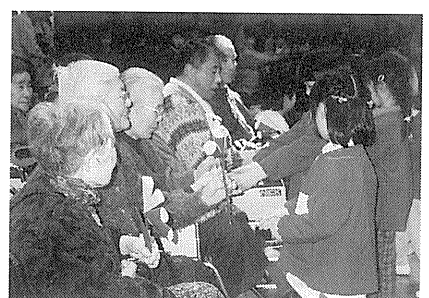
編集人/社協-K.

歳時記／まほろば

◇H 8 . 3 / 14 於：ミラ・フード館◇

おひさまコンサート（子どもと老人のふれあい事業）の開催

すっかり好例となった“おひさまコンサート” 狭間壮さんに、本年はムジカコンパスのみなさんも出演いただき、第1部「日本の四季を歌う」／第2部「よいこといっしょに」と、たいへんゴージャスなプログラムで催され、参加した保育園児・お年寄りのみなさんも、楽しいふれあいのひとときを満喫できた様子であった。（園児たちからは、今年も手づくりチューリップのプレゼントがあった。）



◇ボランティアはじめまして講座等の開講◇

本年になって、ボランティア関係の各種講座等がいっぱい企画・開講されてきている。近年、社会福祉協議会主催によるスクール・講座が多かったが、今年は、村の教育委員会・保健補導員会も企画に参画し、またボランティア連絡協議会主催の講座も企画実施されるなど、研修活動にも広がりが見られるようになった。こうした機会が有効に活用され、更に大勢の方々によってボランティア活動が実践されて行くようになることを期待したい。

松下 俱子 講師



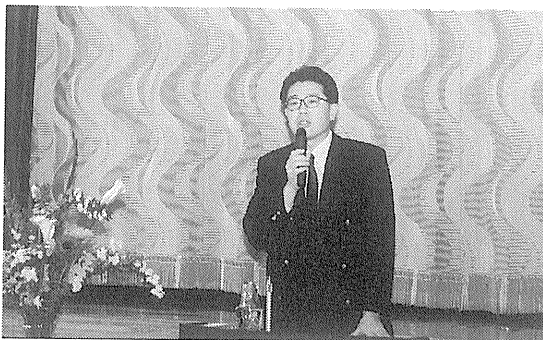
「広がるボランティアの世界」 H8.1.27/於ミラ・フード
(国立信州高遠少年自然の家所長)

塚原 成幸 講師



「神戸でのボランティア活動に参加して」他 H8.2.27/於ふれあいの館
(ストリートシアター道芸主宰)

山口 光治 講師



「暮らしとボランティア」 H8.3.16/於トレセン
(長野社会福祉専門学校教授)

小林 良正 講師



「女性の生き方、生き甲斐とは」～妻・母・女～ H8.5.10/於ミラ・フード
(浄土宗知恩院派・良正庵庵主)

社協総務・組織関係報告

◇小・中学校の社会福祉協力校指定◇

平成8年度から平成10年度までの3年間、山形小学校及び鉢盛中学校の両校が、社会福祉協力校に指定されることとなった。

県社協の行うこの社会福祉協力校事業は、小学校、中学校及び高等学校を対象に、児童・生徒の社会福祉への理解と関心を高め社会連帯の精神を養うとともに、地域に根ざした福祉教育を推進することを趣旨とするもの。

両校では、この社会福祉協力校指定を機に、従来の活動を福祉教育の視点から見直し、福祉教育教材を積極的に活用して、ボランティア活動等について、児童・生徒にしっかりと意識づけると共に、豊かな体験学習活動へと結びつけて行きたいとしている。



▲小学校児童による交流活動／ピアやまがた

◇小型リフト付バス [まほろば号] の贈呈◇

本年2月14日、「24時間テレビ」チャリティー委員会／(株)テレビ信州より、山形村社会福祉協議会に対し、同チャリティー募金による福祉車輛が贈呈された。



▲坂井(テレビ信州)社長より目録を受ける本庄会長

この日贈呈されたのは、車椅子のままで乗車できる小型リフト付バスで、福祉サービスを行う上での移送力として欠かせない車輛である。

山形村社協では、芳志に応えるため、ポケットハイキング(関連記事/P3)等のホームヘルプサービス及びB型移行となったデイサービスセンターふれあいの送迎サービスに有効利用し、活力ある福祉サービスの実現を考えている。

社協基金等への寄附金の紹介(敬称略)

—平成7年12月以降—

○塩原道春(上竹田)	金 100,000円
○サラダ街道山形新鮮野菜市組合	金 10,000円
○JA松本ハイランド農協婦人部山形支部	金 30,000円
○上條美知子(中大池)	金 50,000円
○サウンドファンタジー	金 50,000円
○小林お竹(穂高町)	金 50,000円
○清水秀澄(岩手県/平泉町)	金 50,000円
○(株)トランスポート・シナノ	金 150,000円

おもいっきり吹いてみないか
ことしのHotな夏を…



—あたたかな善意、ありがとうございました。—

—CM/ふれあい児童館—

◇インフォメーション／山形村社会福祉協議会から◇

福祉バスの増便運行

ふれあいの館／福祉バスを、この6月より1日3便に増便し、運行することとしました。公共施設などへの交通手段として、お気軽にご利用ください。[問い合わせ] 山形村社協／☎98-3081まで。



福祉バス時刻表

1. 運行日 月・水・金曜日(但し、国民の祝日及び12月29日から1月3日まで運休)
2. 利用できる人 おおむね65歳以上の人及び身体に障害があって歩行困難な人

迎え時刻 (第1便)		迎え時刻 (第2便)		送り時刻 (第3便)	
8:40	役場 (発)	11:00	ふれあいの館 (発)	15:00	ふれあいの館 (発)
8:41	ふれあいの館 前	11:02	役場 前	15:02	役場 前
8:42	下大池公民館 前	11:05	山形協立診療所 前	15:04	山形協立診療所 前
8:48	慈眼堂 前	11:07	横山医院 前	15:07	横山医院 前
8:50	旧小坂支所 前	11:10	下大池公民館 前	15:10	下大池公民館 前
8:52	小坂公民館 前	11:12	慈眼堂 前	15:12	慈眼堂 前
8:54	大日堂 前	11:14	旧小坂支所 前	15:14	旧小坂支所 前
8:56	大池諏訪神社 前	11:16	小坂公民館 前	15:16	小坂公民館 前
8:58	橋下集落センター 前	11:18	大日堂 前	15:18	大日堂 前
9:00	古宮 前	11:20	大池諏訪神社 前	15:20	大池諏訪神社 前
9:02	中大池公民館 前	11:22	橋下集落センター 前	15:22	橋下集落センター 前
9:04	山形協立診療所 前	11:24	古宮 前	15:24	古宮 前
9:06	横山医院 前	11:27	中大池公民館 前	15:27	中大池公民館 前
9:08	ふれあいの館 (着)	11:30	山形協立診療所 前	15:30	山形協立診療所 前
9:10	役場 (着)	11:33	横山医院 前	15:33	横山医院 前
9:12	御判形集会所 前	11:35	ふれあいの館 (着)	15:35	ふれあいの館 (着)
9:14	下本郷集会所 前	11:37	役場 (着)	15:37	役場 (着)
9:16	原町 辻	11:40	御判形集会所 前	15:40	御判形集会所 前
9:18	山形消防署 南	11:42	下本郷集会所 前	15:42	下本郷集会所 前
9:20	北堀道祖神 前	11:44	原町 辻	15:44	原町 辻
9:22	南中集会所 南	11:46	山形消防署 南	15:46	山形消防署 南
9:24	北村 辻	11:48	北堀道祖神 前	15:48	北堀道祖神 前
9:26	上手村集会所 前	11:50	南中集会所 南	15:50	南中集会所 南
9:28	神明集会所 前	11:53	北村 辻	15:53	北村 辻
9:30	唐沢 入口	11:55	上手村集会所 前	15:55	上手村集会所 前
9:32	唐沢上集会所 前	11:57	神明集会所 前	15:57	神明集会所 前
9:34	弁天池 入口	11:59	唐沢 入口	15:59	唐沢 入口
9:36	美野里ヶ丘集会所 前	12:01	唐沢上集会所 前	16:01	唐沢上集会所 前
9:40	ピアやまがた 前	12:03	弁天池 入口	16:03	弁天池 入口
9:42	四ツ谷集会所 北	12:05	美野里ヶ丘集会所 前	16:05	美野里ヶ丘集会所 前
9:44	上竹田野菜集荷所 前	12:09	ピアやまがた 前	16:09	ピアやまがた 前
9:46	原村 上 辻	12:11	四ツ谷集会所 北	16:11	四ツ谷集会所 北
9:48	上竹田公民館 前	12:13	上竹田野菜集荷所 前	16:13	上竹田野菜集荷所 前
9:50	こだま様 前	12:15	原村 上 辻	16:15	原村 上 辻
9:53	殿村 辻	12:17	上竹田公民館 前	16:17	上竹田公民館 前
9:55	ポケットパーク 前	12:20	こだま様 前	16:20	こだま様 前
9:57	横山医院 前	12:22	殿村 辻	16:22	殿村 辻
10:00	山形協立診療所 前	12:24	ポケットパーク 前	16:24	ポケットパーク 前
10:05	役場 (着)	12:25	ふれあいの館 (着)	16:25	ふれあいの館 (着)
10:07	ふれあいの館 (着)	12:27	役場 (着)	16:27	役場 (着)

上條 智子 (下竹田/南竹原連絡班)



3月初めの雪の朝、ミラ・フード館近くの道路を中学生が自転車を押し歩いて歩いていた。歩道は前夜から降り続いた雪が10cm近く積もり、湿り気の多い重たい雪にハンドルをとられ、しかたなく歩いているのだろう。鉢盛中まではまだ程遠く、彼の表情は途方にくれている様子だった。その横をまるで彼には気づかないのか、グジャグジャになった泥雪をはねとばしスピードを出して走っていく車、車。通勤途中の私は、迷惑そうに迫ってくる後続の車を気にせず、スピードを落とし彼からできるだけ離れてその場を通過した。それがその場で私が彼にできた精一杯の思いやりだった。

困っている人々に対して、私達はいったい何ができるのだろうか。もしかしたら、困っていると表現できずにその場にいる人々に気づいてさえいないのではないだろうか。

私が勤務している養護学校には、小学部・中学部・高等部合わせて150人弱の児童生徒たちが、松本平のあちこちから通って来ている。この山形村からも8人の子ども達が元気に登校している。彼らは知的障害を持っていて、知恵遅れ・ダウン症・自閉症・肢体不自由等その障害の種類も様々である。何らかの原因による脳の障害によることが多く、表現方法や行動の姿は一人ひとり違うが、みんな一人の人間としての意志を持っている。キラキラとした輝く瞳を持ち、精一杯生きようとするその姿には学ぶことが多い。

我が子に障害があることを知った時の家族の嘆き、苦しみは計り知れない。「死ぬことばかり考えていた」と話してくださるお母さんもいる。しかし、お母さん方は、我が子のために強く明るく、そして優しい。「この子のおかげで人の優しさを知ることができた」と前向きに受けとめて生きていらっしゃる人も多い。苦しみを知ってこそ、人はより深く大きい心を持てるようになるのかも知れない。

その家族の方々の大きな願いは、障害者も地域社会の中で皆と一緒に生きてゆけることである。養護学校に在学中も、そして卒業後の生活も。しかしそれは、「かわいそうだから〇〇してあげる」と「できないから〇〇してもらおう」の関係ではないのだと思う。ふれあう中でお互いに学び、相手がいることで自分が変わっていきける、そんな結びつきが求められてくるのだろう。お互いに一人の人間として認めあえてこそ「共に生きる」ことが可能になると思っている。

そのためには、もっともっと地域の中で、障害者を受け入れてくれる場がほしい。ふれあう機会がほしい。「知らないから、どう接していいかわからない」のではなく、「知り合うために何をすればいいのか」という視点がほしい。高齢者福祉については、身近なことでもあり、具体的な施策がいくつも実現化している。しかし、対象となる人数こそ少ないが、障害者福祉についてはもっともっと充実されてもいいのではないだろうか。卒業後に地域で働ける作業所が不足している現実を、どれだけの人が知ってるのだろうか。

障害者とその家族を支えるのは、やはり地域社会でありたい。そして、「共に生きる」ことの意味をいつも考えていられる日々でありたい。

まほろば

●発行所

〒390-13

●印刷所

(社協広報/第11号) 平成8年6月30日発行

社会福祉法人 **山形村社会福祉協議会** (ふれあいの館内)

長野県東筑摩郡山形村3940番地の1 ☎0263 (98) 3081 FAX0263 (98) 3016

日本ハイコム株式会社